

[年度] 平成25年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] スターチス・シヌアータ新品種‘紀州ファインラベンダー’の育成

[要約] 花色が淡い青紫色のスターチス・シヌアータ新品種‘紀州ファインラベンダー’を育成した。本品種は、花房数が多く切り花にボリュームがあり、低温要求性が低く、収量性が高い品種である。

[キーワード] スターチス・シヌアータ、新品種、‘紀州ファインラベンダー’

[担当機関名] 農業試験場暖地園芸センター 育種部 [連絡先] 0738-23-4005

[専門分野] 花き

[分類] 普及

[背景・ねらい]

和歌山県ではスターチス・シヌアータの品種育成に取り組み、これまでに‘紀州ファインバイオレット’等6品種を育成している。しかし、花色が紫、黄、白色に限られるため、オリジナル品種の花色充実を目指し、新たにブルー系品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. ‘紀州ファインラベンダー’は 県内で育成された品種系統間の自然交配によって得られた品種で、種子親は当センター選抜系統‘ER00-02-2’である。
2. ‘紀州ファインラベンダー’の花色は淡い青紫色である(図1、表1)。
3. 花房の大きさは小さいが数が多く、分枝角がやや広いため切り花にボリューム感がある(図1、表1)。
4. 収量性は高く、11~3月の収量は、豊産性の‘サンデーラベンダー’や‘紀州スター’と同等、‘インペリアルラベンダー’より多い(図2)。また、採花期間を通じて上物の割合(2L率)が高い(図2)。
5. 低温処理をしなくても定植時の抽苔率が98.8%と高く、低温要求性は低い(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本品種は2013年7月に品種登録出願公表されている。
2. 現在、種苗の増殖は(財)日高川町ふるさと振興公社バイオセンター中津及び(株)ベルディに許諾している。
3. 栽培は和歌山県内の生産者に限る。

[具体的データ]



図1 ‘紀州ファインラベンダー’
(左) 切り花全体、(右) 花房

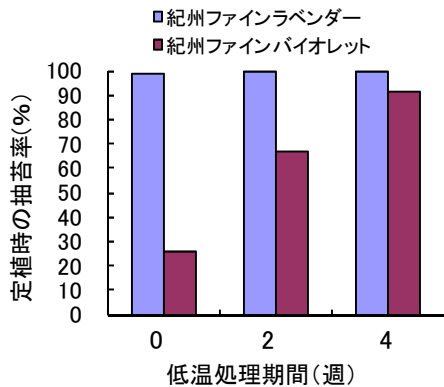


図3 低温処理期間の違いが‘紀州ファインラベンダー’
及び対照品種の抽苔率に及ぼす影響

調査日：2012年9月7日
 培養条件：20℃、PPFD40～50 μmol・m⁻²・s⁻¹、16時間照明、約8ヶ月間
 培養期間：クーラー育苗条件：昼温（6:00～20:00）25℃/夜温（20:00～6:00）
 15℃設定、遮光率60%、ガラス温室、約45日間

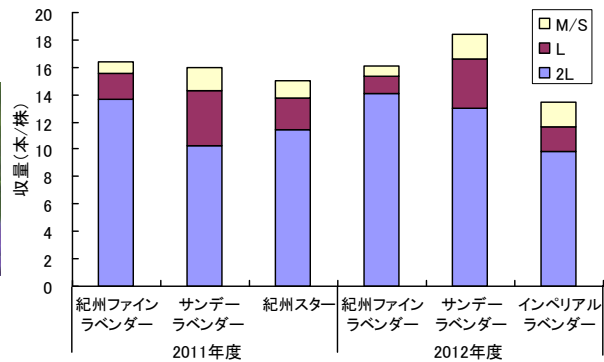


図2 ‘紀州ファインラベンダー’ 及び
対照品種の収量

調査期間 2011年度：2011年11月1日から2012年3月21日
 2012年度：2012年10月29日から2013年3月15日
 栽培概要 9月上旬定植、株間30cm、条間40cm、2条千鳥植え、
 最低夜温3℃
 調査場所 御坊市 暖地園芸センター内ガラス温室
 階級 2L:切花長70cm以上、花房数5個以上
 L:切花長60cm以上、花房数4個以上
 M/S:切花長40cm以上、花房数3個以上

表1 ‘紀州ファインラベンダー’ 及び対照品種の切花特性

品種名	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	翼の幅	分枝数 (本)	花房数 (個)	花房長 ^z (cm)	花房の幅 ^z (cm)	萼の色 ^y
紀州ファインラベンダー	84.9	5.2	中	6.0	10.5	5.5	2.9	淡青紫 (N87D)
インペリアルラベンダー	77.5	4.6	小	5.4	8.9	7.0	2.8	淡青紫 (N88D)
サンデーラベンダー	79.6	4.5	小	5.2	9.0	7.0	3.3	淡紫 (N81D)

栽培概要：2012年9月10日定植、株間30cm、条間40cm、2条千鳥植え、最低夜温3℃

調査場所：御坊市 暖地園芸センター内ガラス温室

調査期間：2012年10月29日から2013年3月15日

z：調査日 2012年12月17日

y：() 内はRHSカラーチャート色票番号

[その他]

研究課題名：特産花き・野菜のオリジナル品種育成

予算区分：県単

研究期間：平成21～24年

研究担当者：小川大輔・宮本芳城

発表論文等：‘紀州ファインラベンダー’ 品種登録出願番号 第27997号